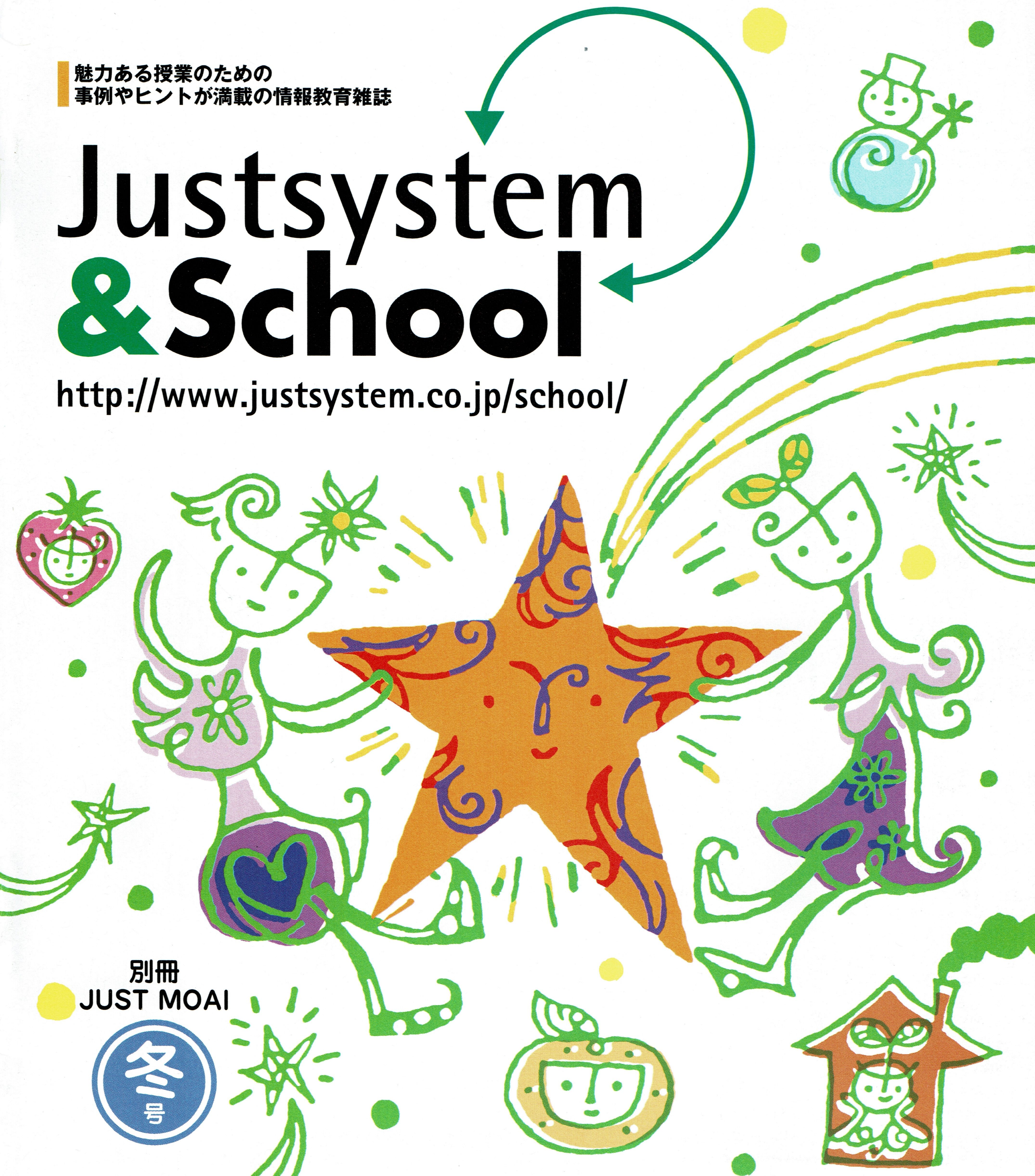


魅力ある授業のための  
事例やヒントが満載の情報教育雑誌

# Justsystem & School

<http://www.justsystem.co.jp/school/>



別冊

JUST MOAI



この先生・あの団体  
その動きに要注目!

# KICE

## 神奈川インターネット教育活用研究会

### 学校という枠を越えて 情報教育の今を見つめる

インターネットを教育に活かすことを目的に、神奈川県を中心に活動する、神奈川インターネット教育活用研究会(Kanagawa Internet Conference on Education=KICE)。現在、メンバーは約100名。小中高の先生、大学や教育センター、一般企業、地域のボランティアまで、多様で個性的なメンバー構成が特徴だ。メーリングリストやオフライン定例会、情報化時代の先端をいく講師を招いての研究集会など、精力的に活動を展開し、情報教育の次なる一歩を目指す。

#### お話を聞いたメンバー



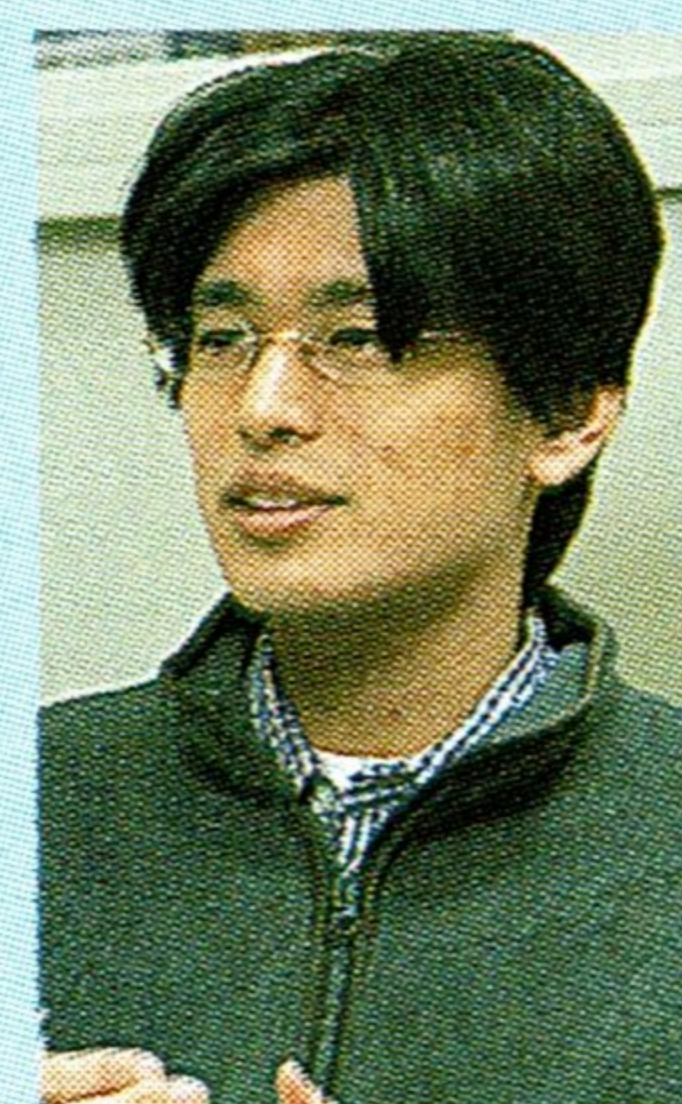
松田基章(まつだ・もとあき)  
横浜市立盲学校高等部普通科教諭  
KICE現(2002年度)代表  
中学校の旧情報基礎の研究、横浜市教育委員会情報教育課などを経て現学校教諭へ。横浜市立盲学校図書館の代表を務めるほか、文部科学省と総務省共催による学校インターネット『ユニバーサルデザイン』などにも参加。



出口和生(でぐち・かずお)  
横浜市立川和東小学校教諭  
KICE初代(1998年度)代表  
小学校教員として17年間、情報教育の推進に努める。前任校横浜市立本町小学校では、小学校におけるインターネット活用の先駆けとなる実践を行った。現在「青い目の人形」をインターネットでつなぐサイト運営等を手がけている。



額田順二(ぬかた・じゅんじ)  
横浜国立大学教育人間科学部助教授  
KICE4代(2001年度)代表  
東京工業大学助手、東京都立科学技術大学専任講師・助教授、横浜国立大学総合情報処理センター助教授を経て、96年10月より現職。「情報社会と次世代ライフスタイル」(電通・2000年11月発行・共著)がある。



山根健(やまね・たけし)  
慶應義塾大学職員  
KICE3代(2000年度)代表  
慶應義塾大学在学中に100校プロジェクト神奈川県内対象校のインターネット接続受け入れを担当。これが縁になりKICEに参加。修士課程修了後、民間企業在籍中にKICE代表になる。2000年2月より現職。

### 多様で幅広いメンバー構成から生まれる 現場に密着した活発な取り組み

KICEの活動は、メーリングリストと月1回のオフライン定例会による、情報交換と技術研修が軸となっている。メーリングリスト(以下、ML)のテーマとしては、教育現場での問題がリアルタイムに取り上げられ、最近は無線LANやネットワークのセキュリティに関することが多いという。疑問の投げかけに対する答えが、大学やIT企業などの専門家から返ってくるという実用性の高さが魅力だ。

毎回10~15名程度が参加する定例会での技術研修は、メンバー自身が共同でネットワーク整備を行うこともあるというユニークなもの。開催校は神奈川県内の各学校が持ち回りで、パソコン室や会議室が会場となるが、例えばMLで“学校のパソコン室のネットワーク環境を整備したいが、どうすればいいか”という相談があれば、現場となる学校にメンバーが集まり、「それでは、ネットワークを整備しましょう!」と技術研修がスタート。黒板に設計図を書き、天井にケーブルを巡らすフックを取り付け、パソコンの設定をして…と作業を進め、ネットワークを完成させていく。

「お互いに助け合ってインターネットを普及させましょう、というのが目的ですから」と川和東小学校の出口先生。横浜国立大学助教授の額田先生は、「実際に授業に活かすためには、まず環境作りが大切。しかし、各学校の情報教育担当の先生の独力だけでは限界がある。メンバーみんなで知識や技術を出し合いながら、現場の先生たちが使いやすい環境を整えます」

と、技術面でのサポートの重要性を指摘。また、横浜市立盲学校の松田先生も「学校によって環境はさまざまで、その学校特有の個性と課題を持っている。ニーズは一樣ではないのです」

と言う。教育の質を高めるには、現場に密

着した実務レベルでの活動が不可欠だ。

また、企業に外注すると経費もかさむが、自分たちでやってしまえば材料代のみで整備できるというのも利点。大学の研究者やIT関連企業のメンバーも参加しているため、教員のみで構成される集まりでは得られない幅広い知識や技術でサポートできるという。定例会は毎回、IT環境整備のための実地訓練の場にもなっている。環境整備を依頼する方もされる方も、両者のスキルアップにつながっているのだ。

### 幅広いネットワークを活かして 公開特別研究集会を開催

このほか、年1回ほどのペースで、メンバー以外にも参加者を募って公開特別研究集会を企画。幅広いメンバーの人脈を活かし、情報教育分野の第一線で活躍している方々に講演を依頼する。2001年には、文化庁課長・岡本薫氏や金沢大学・中川一史助教授などを講師に迎えた。

公開特別研究集会に際しては「KICE 2001」冊子を制作し、講師やメンバーによる寄稿のほか、MLで「情報教育はどのように“学力”を育てるのか?」というテーマで展開したリレー討論の内容などを掲載。内容・ボリュームともに充実したものに仕上がった。冊子は神奈川県内の全学校約1700校に無償配布。メンバーの思いや考えを発表する機会となり、KICEの活動の枠を広めるための積極的な取り組みとなった。

#### ホームページをチェック!



<http://kice.edhs.ynu.ac.jp/>

これまでの歩みや研究実践を紹介。メールでの参加申し込みも受け付けている。参加条件は、原則として神奈川県内に在学・在職・在住で、目的を達成するために積極的かつ無償で活動できること。

そして、驚くことに、これらの活動はすべて無償で展開されている。KICEには参加費もなければ報酬もなし。企業から参加しているメンバーや講演会の講師もすべてボランティアだ。冊子の制作に関しては印刷や製本といった費用が発生するが、冊子に広告を掲載することでメンバーの負担を極力少なくしている。

### 学校間の連絡網からスタートして 神奈川県全体の活動へと発展

活発な活動を展開しているKICEだが、最初は小さな人と人とのつながりから始まったという。1995年にスタートした通産省と文部省(当時)による100校プロジェクトに、神奈川県からは6校が参加した。96年に開かれた100校プロジェクトの関東地区研究会の会場において、参加校の本町小学校に在籍していた出口先生が

「神奈川県内の参加校6校で連絡がとれないかな…」

とつぶやいたところ、横浜国立大大学院生だった高橋純氏(現富山大学講師)が「じゃあ、僕がMLを作りますよ」

と応えたのがきっかけとなった。慶応義塾大学職員の山根健氏は、

「当時は、どうすればインターネットにつながるのか、どのようにシステムを整えればいいのかというようなことも模索していた時期。考えていることや不安に思っていることを話し合いました」

と振り返る。参加校6校で助け合うために、学校を回っての作業も始まった。これは、現在の活動の原型となっている部分だ。

ところが97年に入り、参加校においてシステム整備がひと段落して目的が達成されると、MLへの書き込みも少なくなり、活動は一時休止状態となる。

しかし、98年に、それまで100校プロジェクト参加校中心の活動だったものが、〈神奈川県全体に広くインターネットの教育利用を普及することを考える〉という新たなテーマのもと活動を再開。現在の新生

KICEが誕生した。

それまであった枠組みを取り外し、参加者を広く募ったことにより、MLやオフラインの会合も活性化。99年から2年にわたり、横浜国立大学公開講座『学校教育におけるインターネット活用の実際』ほかをメンバーが手がけるなど、KICEは活動の枠を広げていった。

### 教育の情報化を支えるのは 人と人とのつながり

「これからの教育の情報化には、小中高特殊諸学校・大学と、保護者や地域の企業、そして教育委員会と社会全体の連携が必要。それぞれの学校という枠組みで考えるのには限界を感じています。先生たち自身も、さまざまな人たちと話す機会

を持つことが大切だと思います」

と教員の立場から松田先生が語る。

「たくさんの人と出会える場としても、いい刺激になります」

と出口先生も口を揃える。山根氏からは「先生たちには、設備的なことで悩むことなく、授業に専念して欲しい。そのサポートができれば」

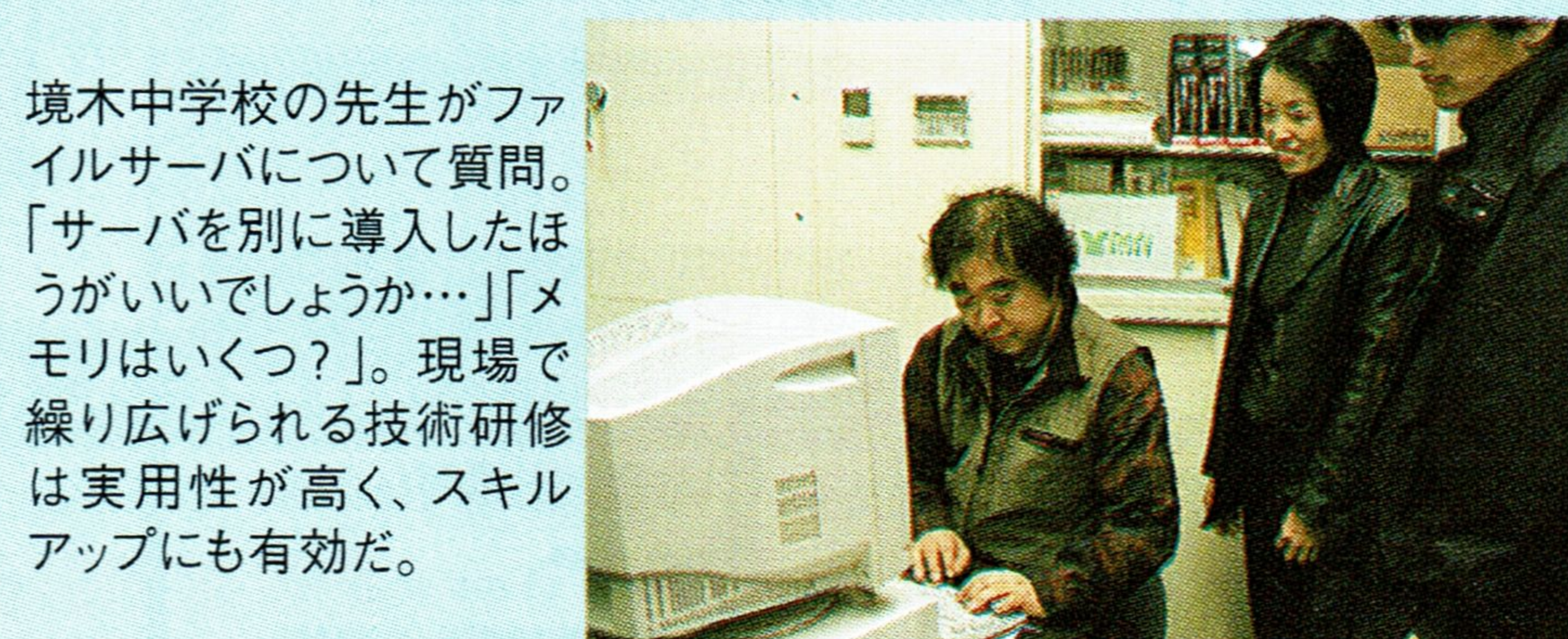
と、心強い言葉。最後に、額田先生は、「試行錯誤しながら現場に立つ先生たちの勇気や励ましになれば幸いです。試行錯誤を共有するために参加してほしい」と思いを語ってくれた。

スタートから6年が経過。KICEは、現場に密着した活動で、神奈川県の情報教育を支えている。

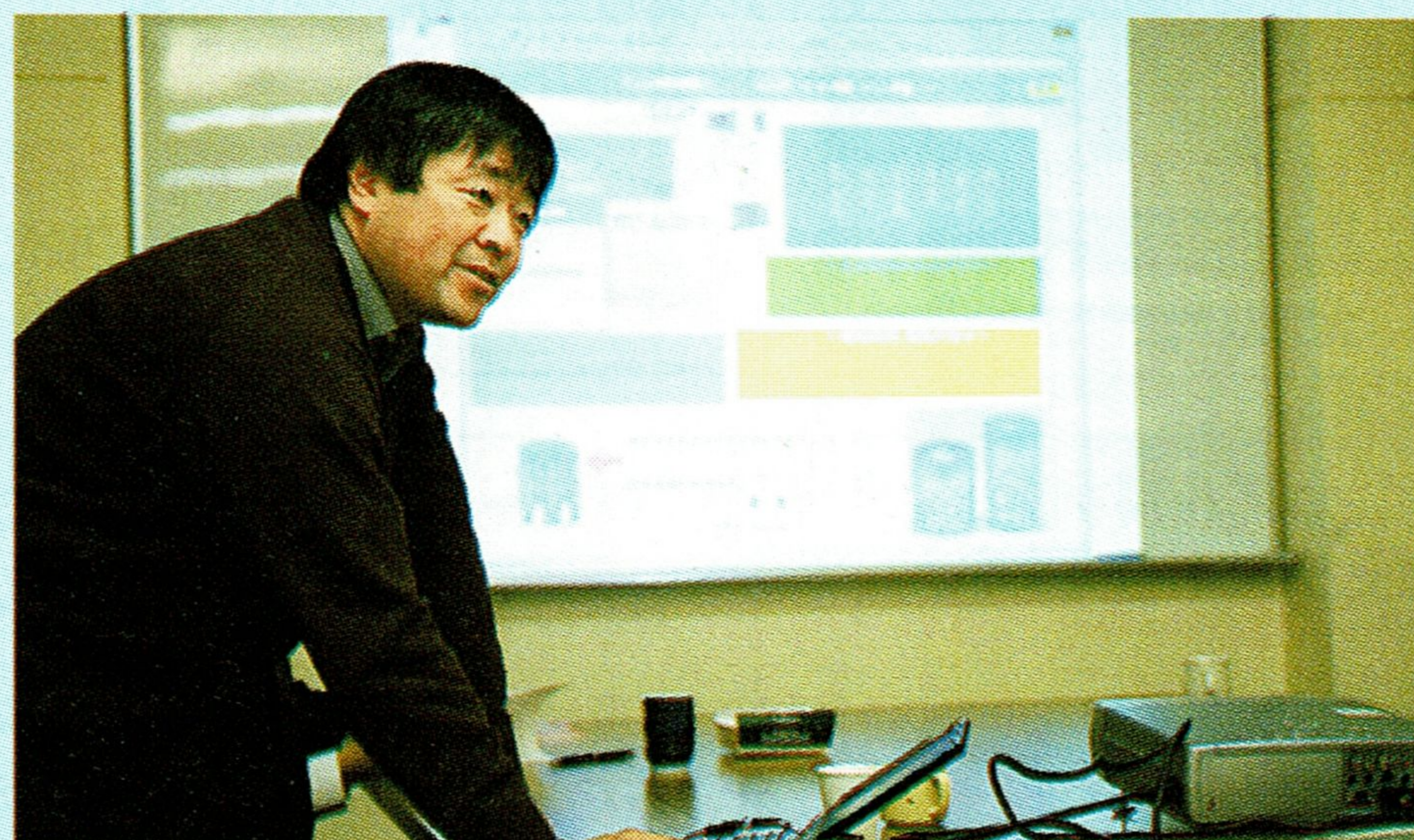
### 11月の定例会はこんな様子でした！



技術研修に続いて、会議室を借りての情報交換会。この日だけ参加した境木中学校の先生もいた。KICEは会費制ではないこともあり、参加は自由。オープンな姿勢が積極性を生んでいる。



境木中学校の先生がファイルサーバについて質問。「サーバを別に導入したほうがいいでしょうか…」「メモリはいくつ?」。現場で繰り広げられる技術研修は実用性が高く、スキルアップにも有効だ。



会議室にノートパソコンとプロジェクターを持ち込んで、プレゼンテーション会場に早変わり。「とうきょうED(エド)」の三橋先生が、PHSでインターネットに接続し、eラーニング教材を紹介。

定例会は毎月第3土曜に開かれる。11月の定例会は横浜市立境木中学校で開催された。前半は、境木中学校のパソコン室での技術研修。既存のパソコンがファイルサーバとして使用できるかどうかの調査をした。

後半は、会議室に場所を移して情報交換会。今回は、東京の教育メーリングリスト「とうきょうED(エド)」のメンバーであり、墨田区立墨田中学校の三橋秋彦先生が講師として参加。東京の情報化や学校のインターネット利用などについての発表、学校教育で利用可能なeラーニング教材『Web Expo』の紹介などが行われた。

その後はメンバーによる自己紹介と近況報告、インターネットやパソコンに関する情報が発表された。



「東京の地域性についてもっと知りたいのですが…」「オフラインではどんな活動を?」などの質問が飛び交う。ゲストの参加は会を活性化させる。「元気をいただきました」と最後は拍手で締めくくった。